

天然砕石を活用した環境対応型の地盤改良工法「HySPEED 工法」

液状化に特化したサービス対応を8月より開始

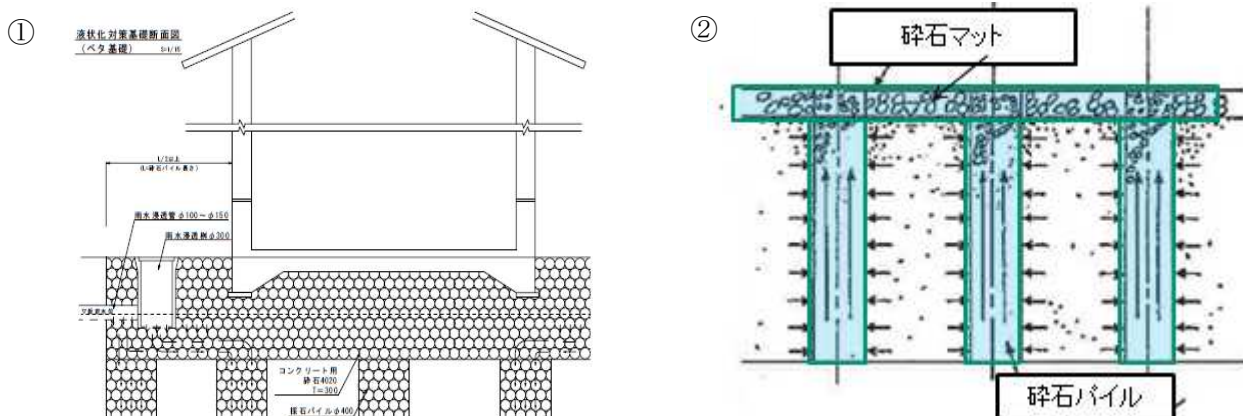
一般住宅からアパート、マンション、店舗、工場等の建築物にも対応

ハイアス・アンド・カンパニー株式会社(代表:濱村聖一、本社:港区 以下、ハイアス)は、天然砕石を活用した環境対応型の地盤改良工法「HySPEED 工法」の液状化に特化したサービス対応を新たに8月より提供開始いたします。

この度提供するの、液状化現象の影響を抑制できる2つの施工手法です。基礎の周囲に厚さ30cm以上の砕石からなる透水層を敷くことで、砕石から上がってきた水を逃がすことを可能にします。

下記①は、建物基礎の下に加え、周辺にも通常より長めの砕石パイルを施工し、且つ基礎と砕石パイルの間に砕石を敷く手法です。②は基礎の下と建物の周囲に砕石を敷く手法で、①に比べ簡易的な対処法となります。

【液状化特化サービスの概要】



HySPEED 工法は天然砕石を活用した環境対応型の地盤補強工事として、累積施工件数 6,200 棟以上の実績があります。天然砕石を活用して地盤を締め固めているため、砕石の隙間に水が通り易く、土中の水圧上昇が抑えられるため、地盤補強だけでなく、液状化対応工法としても以前から注目されていました。実際、東日本大震災後の事後調査においても、液状化の軽減効果の実例として、その効果が実証されています。

東日本大震災以降、住宅会社や設計事務所から「液状化対策工法」としての問合せが急増していることを受け、HySPEED 工法本部であるハイアスは、地盤補強目的の工事に加え、今回新たに液状化に特化したサービス対応を開始することにいたしました。

液状化対応を行う場合、一般住宅でも 1,000 万円以上の費用が掛るケースがありますが、「HySPEED 工法」は予算を抑えて、(通常の 5 分の 1 程度)液状化現象を抑制できるということも、問合せ増加の要因となっています。

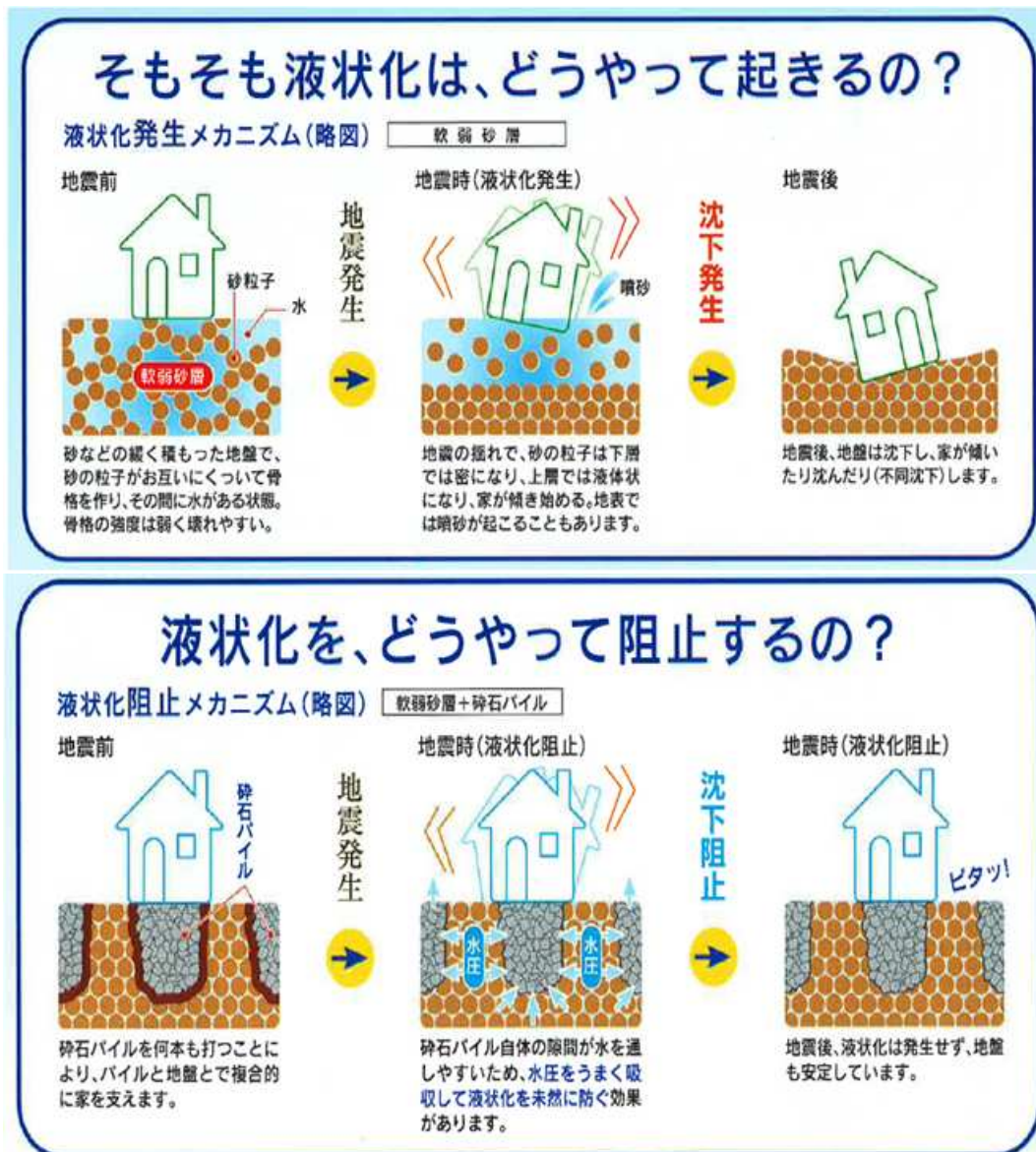
国土交通省告示 1113 号第 2(平成 13 年 7 月 2 日)では、地震時の液状化による地盤の変形について有害な損傷、変形及び沈下が生じないことを確かめることが定義されていますが、東日本大震災以降、今後ますます住宅会社の施工責任問題は問われることとなります。

ハイアスでは、今期 1 年間 (2011 年 5 月～2012 年 4 月) で、HySPEED 工法の施工件数 6,000 棟の計画をしています。

■ HySPEED 工法の特徴

- ①セメント等を使わない為、土壌汚染の懸念が無い
 - ②通常の杭の様に産廃、埋設物扱いにならない為土地の資産価値を棄損しない
 - ③施工後の品質検査の徹底
- 対象となる建物は一般住宅などの小規模建築物の地盤補強からアパート、マンション、店舗、工場など様々な建物の地盤補強工法として前年比約2～3倍のペースで毎年施工実績を積み上げています。

■ 液状化発生メカニズムと阻止メカニズム



■ ハイアス・アンド・カンパニー(株) 会社概要

- 設立：平成 17 年 3 月 ○ 資本金 179,000 千円 ○ 所在地：東京都港区
- 事業内容：財産コンサルティング事業、住宅・建設・不動産事業のナレッジ開発、販売促進支援事業など
- 会社 URL：<http://www.hyas.co.jp>
- ハイアス運営サイト
- R+house <http://www.r-plus-house.com/>
- 地盤.jp <http://www.ziban.jp/>
- ウィルスタイル <http://www.willstyle.net/>
- ハッピーリッチアカデミー <http://happyrich.jp/>